

世界とつながる高校生

～「空飛ぶ車いす」の取組～

県立倉吉総合産業高等学校

日本では年間3万台以上の車いすが廃棄されています。一方、アジア諸国には高く車いすを買えない人たちが大勢います。

そこで、全国の工業高校生が修理ボランティアとして、古い車いすを分解し、整備、再生し、アジアで車いすを必要とする人たちにプレゼントする活動が始まりました。

本校もこの活動に平成17年度から参加しています。

再生された車いすは、輸送ボランティアを希望された旅行者により手荷物として飛行機で届けられることから、「空飛ぶ車いす」と呼ばれています。全国で24都道府県76校がこの活動に参加し、これまでに27カ国の6,000人以上の人たちに車いすをプレゼントしてきました。



「空飛ぶ車いす」の活動は多くの方々への支えにより成り立っています。本校では、タイヤ購入等の費用をまかなうために、書き損じはがきの収集を行っています。協力を希望される方は本校まで連絡してください。

「書き損じはがき収集」に関する問合せ 倉吉総合産業高校 電話0858(26)2851

問合せ先 県教委人権教育課 電話 0857(26)7535

鳥取県では、多様な人々と豊かにつながり、共に生きる姿を目標に掲げ、様々な活動を通して人権教育に取り組んでいます。

今回は、車いすの修理ボランティアを通してアジア諸国の方々とながら、社会貢献活動を進める倉吉総合産業高等学校を紹介します。

見知らぬアジアの国で、車いすがもう一度活躍している姿を想像するとわくわくします。

困っている誰かのために役立ちたいと考えながら作業をしています。

タイヤ交換、錆取りなどの整備と壊れた箇所を修理します。最後に安全点検は忘れません。

東日本大震災後には宮城県の子川町立女川病院から被災した車いすが届き、修理をして返したこともありました。

県立米子工業高等学校

シリーズ 県立高校の取組



電子回路組立



旋盤作業

HPアドレス <http://www.torikyo.ed.jp/yonagoko-h/>

地域社会・産業界に貢献する人材の育成

～高校生ものづくりコンテストに挑む～

本校では、多くの生徒が「ものづくり」にかかわる職に就き、地元産業を支えています。工業高校として、ものづくりの技能を高めるため、授業以外の時間にも、全国の工業高校生が一堂に会して技を競う「高校生ものづくりコンテスト」の練習に取り組み、大きな成果をあげています。

高校生ものづくりコンテストには7部門の競技があり、本校では旋盤作業、電気工事、電子回路組立、化学分析、測定の5部門に取り組んでいます。

これまで何度か、各部門で鳥取県大会を突破し中国大会に進んでいます。特に電気工事と電子回路組立では、中国大会での優勝経験もあり、**全国大会でも優勝1回、準優勝1回、3位2回**の成果をあげている強豪校です。また、卒業生の中には、**技能五輪全国大会の銀メダリスト**もいます。

日本の工業を支えているのは高度な技を持った技術者です。これからもこの取組を続け、さらなる高みを目指します！

中学生の皆さん。本校に入学して技を磨きませんか！



電気工事

生徒の感想

「高い精度が求められるので、技能と集中力が身につきました。また、自分で創意工夫するようになりました。」
 「自ら学び、問題解決する力が付きました。細かいところまで目が届くようになり、勉強にも役立っています。」

問合せ先 県立米子工業高校 電話 0859(22)9211

環日本海教育交流

韓国江原道との児童生徒交流事業(来県)

平成25年9月10日(火)～9月13日(金)

江原道児童生徒交流団25名(小学生6名、中学生7名、高校生7名、引率教員等5名)が9月10日(火)から13日(金)まで鳥取県を訪問しました。交流団はグループごとに、智頭小学校、鹿野中学校、鳥取商業高等学校への訪問と児童生徒宅へのホームステイを行い、授業体験や交流会での意見交換等を通じて相互理解と親睦を深めました。鹿野中学校では、中学生からマンツーマンで手ほどきを受けながら琴の演奏を体験しました。学校訪問以外にも、前年度本県から参加した児童生徒との再会や大山青年の家で日吉津小学校児童との交流レクリエーションもあり、日韓双方の子どもたちにとって、交流の広がりや深まりを実感できる4日間となりました。



鹿野中学校での琴の演奏



大山青年の家でのレクリエーション

韓国江原道との教員交流事業(派遣)

平成25年6月18日(火)～6月23日(日)

鳥取県教員交流団10名が、6月18日(火)から23日(日)まで韓国江原道を訪問しました。この訪問の目的は、特色ある教育を行っている学校を視察して本県の教育に生かすことで、小中学校から高等学校及び特別支援学校まで、施設設備や人的資源が充実した様子を見学しました。オン特別支援学校では、キャリア教育の観点から校内にカフェが設置されており、一般のお客様相手に職業実習ができるようになっていました。訪問先の学校では教職員や児童生徒のみなさんから心温まる歓迎やもてなしを受け、交流の絆が一層強くなる有意義な訪問となりました。



江原道教育庁での記念撮影



オン特別支援学校の生徒が働くカフェ

問合せ先 県教委高等学校課 電話 0857(26)7959

日本人学校の先生紹介

シンガポール日本人学校から

加藤 幸平 平成25年度派遣
会見第二小学校



1 はじめに シンガポールに赴任してもうすぐ1年が経過しようとしています。最初はいろいろと戸惑うことの多かった海外生活でしたが、地理感覚や現地の人や新しい校務分掌にも今は慣れ、充実した日々を送っています。

2 学校 シンガポール日本人学校は、小学部がクレメンティ校とチャンギ校、そして単独の中学部で運営しており、ほぼ全員がスクールバスで通っています。チャンギ校にのみ特別支援教室を設置しており、私は、そこで特別支援教育コーディネーター等の業務を担当しています。

3 児童・生徒 各国の人々が集まるシンガポールでは、公用語である英語を日常的に使用するため、少人数のレベル別英会話学習(週3回)と英語のみの授業(音楽と水泳:週1回程度)を通じた英語教育の充実を力を入れています。

世界的にも児童生徒の学力が高いとされる国の一つなので、日本人学校もその中で存在感を発揮できるよう頑張っています。

4 おわりに 経済成長著しく、世界中から人々が集まってくるシンガポールは、東南アジアのみならず、イギリスや中国、オーストラリアなど様々な文化に触れることもできます。公私にわたり、シンガポールで世界に通じる教育文化を学び、帰国後は鳥取県での国際理解教育に寄与できるよう努めたいと思っています。



民族衣装デーのあいさつ運動



シンガポールといえば マーライオン



シンガポール在住の人たちが800人以上来校し、みんなで夏の一声盆踊り

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7513

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教職員全体の指導力向上を図っています。

今回は鳥取市立北中学校 神波 徹教諭(認定分野:数学)に、取組についてお話を伺いました。

☆学びの楽しさ、奥深さを実感できる授業づくりをめざして☆



「先生、これすごいですね…。」
授業中に生徒たちが目を輝かせるとき、私もうれしさがいっぱいになります。日々の授業の中で、新しいことを学んだ喜びや、できなかったことができるようになった喜び、困難を乗り越える達成感を生徒たちに味わわせたいと考えています。



知的好奇心を引き出す題材を工夫し、すでに学んだ知識と関連づける支援等を行うことにより、生徒が問題解決に到達するように授業構成を考えます。また、練り上げの中では、よりよい考え方を追求したり、他の場面へ活用するようにしています。学ぶことは楽しいことです。学ぶほどにもっと学びたくなります。生徒に学ぶ喜びを味わわせ、学問の入り口に誘いたいと考え、授業づくりをしています。

数学の授業づくりにおいて大切にしていること

- 数学的問題解決学習を通して…
- 問題の提示→解決の見通し→自力解決→集団による解決活動・練り上げ
 - なぜそれでよいのか、という根拠を追求すること
 - 式や図、グラフ等、様々な表現し、多様に思考すること
 - 条件を変えて考えたり、異なる場合を関連づけて考えたりすることで、新たな課題を発見したり、思考を拡げたりすること
 - 日常生活の中の事象を数理的にとらえてモデル化し、解決すること

生徒の感想

- ★いろんな勉強ができておもしろかったし、楽しかったです。数学は難しいけどおもしろいと思いました。自分でねばって問題を解けるようになり、成長することができました。
- ★数学が日常生活のあらゆることに使われていると知ることができ、「おー！すごいな！！」と楽しめました。
- ★いろいろな解き方・考え方を探そうようになったし、問題の一般化もできるように努力できました。

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7512

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第12回 地域の歴史を語るもの～お地蔵さん、石碑～

みなさんが住んでいる地域の身近なところには、大切な「歴史」を刻んだ石造りのものがたくさん残っています。たとえば町のすれやお墓の入口に頭巾や前掛けをつけた六体のお地蔵さんを見かけたことはありませんか？(なぜ六体なのでしょう？)答えはこのページの中にあります。お地蔵さんはぶつ、道端や峠や墓地の入口などに立ち、お坊さんの姿で右手に錫杖という杖、左手に宝珠という玉を持っています。正しくは地藏菩薩と呼ばれ、お釈迦様が亡くなってから56億7千万年後に弥勒菩薩という仏が現れるまでの間、人々の苦しみや悩みを救うといわれています。写真の石碑は大山に通じる道が別の道と交差する場所に建てられ

た道標で柱の右側に「南 ゆせき、作州」の文字が見え、石の下段には碑をたてるために協力した人の名前が刻まれています。このように普段ほとんど意識してみることのないお地蔵さんや石碑は、実は地元の歴史を物語る貴重な文化財なのです。こうしたお地蔵さんや石碑について、それらが作られた時代や理由をおじいさんやおばあさんに聞いたり、図書館などで調べてみると、自分の知らない歴史を発見できるかもしれません。身近な歴史を訪ね、是非新しい発見を体験してみてください。

※道標には道の南にある地名が記されています。「ゆせき」は関金の町、「作州」は岡山県北部のことです。

鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財ナビ) <http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934

石碑(道標)

宝珠(ほうじゆ) 仏教・修験道の法具の一つ。宝の玉。

お地蔵さん(地藏菩薩) 錫杖(しゃくじょう) 仏教・修験道の法具の一つ。杖の先端に輪を取り付けて、それに金属製の輪を通したものを、輪のぶつかり合う音色がいわゆる魔除けの音ともいわれる。

六地藏